# もも・ネクタリン情報　No.３

令和８年４月１０日発行
ＪＡグリーン長野営農販売部・経済部

## ◆生育状況について　ＪＡ管内　川中島白桃

| | 発芽 | 開花 | 満開 | 落花 |
|---|---|---|---|---|
| 平年 | ３／２５ | ４／１３ | ４／２０ | ４／２８ |
| 令和８年 | ３／２８ | ／ | ／ | ／ |
| 令和７年 | ３／２６ | ４／１４ | ４／２０ | ４／２６ |
| 令和６年 | ３／３１ | ４／１２ | ４／１８ | ４／２５ |

## ◆当面する重点作業について

１．天候が不安定な場合は、受粉作業を徹底し、結実確保を図る。
２．薬剤散布を適期に実施する。
３．灰色かび病対策。果柄部にがく片や幼果が入り込むと、灰色かび病の原因となる。
　結実がよく、摘果が遅れると特に目立つため、除去を徹底する。
４．コンフューザーMM並びにスカシバコンを適期に設置する（設置期日は果樹総合情報参照）

## 【もも薬剤防除】

## ◆第３回薬剤散布について

１．散布時期：４月１７日（金）～２１日（火）満開後頃　　実際散布月日　　月　　日
２．使用薬剤（混用順記載）※調合量１００ℓ当り・１０ａ当り散布量：４００ℓ以上

| 農薬名 | 使用倍率 | 調合量 | 収穫前 | 病害虫 |
|---|---|---|---|---|
| 固着性展着剤アビオン | １，５００倍 | ６６mℓ | － | － |
| ロムダンフロアブル | ３，０００倍 | ３３mℓ | ７日 | ハマキムシ類 |
| ウ　ラ　ラ　Ｄ　Ｆ | ４，０００倍 | ２５ｇ | １４日 | アブラムシ類 |
| アグリマイシン－１００ | １，５００倍 | ６６ｇ | ６０日 | せん孔細菌病 |

## 【ネクタリン薬剤防除】

## ◆第３回薬剤散布について

１．散布時期：４月１７日（金）～２１日（火）満開後頃　　実際散布月日　　月　　日
２．使用薬剤（混用順記載）※調合量１００ℓ当り・１０ａ当り散布量：４００ℓ以上

| 農薬名 | 使用倍率 | 調合量 | 収穫前 | 病害虫 |
|---|---|---|---|---|
| 固着性展着剤アビオン | １，５００倍 | ６６mℓ | － | － |
| ロムダンフロアブル | ３，０００倍 | ３３mℓ | ７日 | ハマキムシ類 |
| ウ　ラ　ラ　Ｄ　Ｆ | ４，０００倍 | ２５ｇ | ７日 | アブラムシ類 |
| マ イ コ シ ー ル ド | １，５００倍 | ６６ｇ | ２８日 | せん孔細菌病 |

## 【もも・ネクタリン薬剤防除共通事項】

１．散布上の留意事項

１）訪花昆虫（ミツバチ・マメコバチ）保護のため、記載以外の殺虫剤は、絶対に使用しない。

２）アビオンＥに代えて、Ｋ．Ｋステッカー3,000 倍（水 100ℓ 当り 33mℓ）を使用してもよい。
この場合、必ずK.Ｋステッカーは、最後に混用する。

３）アグリマイシン－１００は、ネクタリンには登録が無いため使用しない。また、飛散しないように注意する。

４）アブラムシ類多発が心配される園は、ウララＤＦを 2,000 倍（水 100ℓ 当りに 50ｇ）で使用する。

５）ロムダンフロアブルに代えて、カスケード乳剤 4,000 倍（水 100ℓ当り 25mℓ）を使用してもよい。

６）うどんこ病（毛じ障害）、灰星病（花腐れ）、灰かび病発生が心配される園は、オーシャインフロアブル 2,000 倍（水 100ℓ当り 50mℓ）又はアンビルフロアブル 1,000 倍（水 100ℓ当り 100mℓ）を加用散布する。

## ◆樹勢衰弱樹対策・結実促進対策の葉面散布について

１．散布時期：第３回薬剤散布５日後頃

２．使用葉面散布肥料

１）樹勢衰弱樹の場合：アミノメリット青５００倍（水 100ℓ当り 200ｇ）

２）中庸な樹勢で、結実促進したい場合：アミノメリット黄５００倍（水 100ℓ当り 200ｇ）

３．留意事項

１）凍霜害により、結実確保が難しい場合は、使用しない。

## ◆灰星病対策について

灰星病は、せん孔細菌病と病斑の症状が似ている。区別がつかなくとも、共に処分する。発見したら早急に病斑部の切除を行い、切除した病斑部は処分徹底する。

## ◆せん孔細菌病春型枝病斑の除去をしよう！！

１．薬剤防除だけでは防ぎきれない難病害であるため、耕種的防除が重要になる。

２．耕種的防除として、春型枝病斑の剪除がもっとも重要になる。できるだけ、早く剪除し感染拡大防止を行う事で、かなり被害を軽減できる。発病は６月まで継続するため、２～３回程度に分けて、園内の巡回し病斑切除を行う。

## ◆品質向上対策について

品質向上対策として、下記葉面散布肥料を散布する。

１．使用時期：第４回薬剤散布に混用使用（単用使用してもよい）

２．使用資材：調合量１００ℓ当り

【品質向上対策】

| 資材名 | 使用倍率 | 調合量 |
|---|---|---|
| オルガミン | １，０００倍 | １００mℓ |
| ケルパック６６ | ５，０００倍 | ２０ｇ |
| 友果 | ５００～１，０００倍 | ２００～１００ｇ |

## 【もも・ネクタリン薬剤防除】

## ◆第４回薬剤散布について

１．散布時期：４月２８日(火)～５月２日(土)　　実際散布月日　　月　　日

２．使用薬剤（混用順記載）※調合量１００ℓ当り・１０ａ当り散布量：４５０ℓ以上

| 農薬名 | 使用倍率 | 調合量 | もも<br>収穫前 | ﾈｸﾀﾘﾝ<br>収穫前 | 病害虫 |
|---|---|---|---|---|---|
| 固着性展着剤アビオン | １，５００倍 | ６６mℓ | － | | － |
| ㊞カナメフロアブル | ４，０００倍 | ２５mℓ | 前日 | 前日 | うどんこ病・黒星病 |
| アプロードフロアブル | １，０００倍 | １００mℓ | １４日 | ７日 | クワコナカイガラムシ |
| アグレプト水和剤 | １，０００倍 | １００ｇ | ６０日 | ６０日 | せん孔細菌病 |

## 【もも・ネクタリン薬剤防除共通事項】

３．散布上の留意事項

１）毛じ障害（りんごうどんこ病）の最重要防除時期となる。果実が密着していると果面に薬液付着しないため注意する。
クワコナカイガラムシ対策として、枝・幹等にムラ無く掛かる。

２）訪花昆虫（ミツバチ・マメコバチ）保護のため、記載以外の殺虫剤使用は絶対にしない。

３）極早生種等（たまき・アームキング等）がある場合は、アグレプト水和剤を使用すると、収穫 60 日前までのため、5 月 1 日に散布すると、6 月 30 日まで収穫できない。
生育状況を考え、必要に応じて散布を少し早めに実施するか、マイコシールド 1,500 倍（水 100ℓ当りに 66g）に代える。

４）アビオンＥに代えて、Ｋ．Ｋステッカー3,000 倍（水 100ℓ当り 33mℓ）を使用してもよい。
この場合、必ずK.Kステッカーは、最後に混用する。

５）せん孔細菌病対策として、第４回・５回の中間で、展着剤ササラ 3,000 倍（水 100ℓ当りに 33mℓ）+クプロシールド 1,000 倍（水 100ℓ当りに 100g）+クレフノン 100 倍（水 100ℓ当りに 1,000g）を特別散布してもよい。

## ◆ももうどんこ病・りんごうどんこ病（毛じ障害）について

毛じ障害は、「りんごのうどんこ病」です。毛じ障害発生は、「あかつき・なつっこ」では、特異的に発生し、「なつき・あぶくま・西王母等」も多く、「川中島白桃」では、ほとんど発生が見られない。

りんご園（特に紅玉・つがる・シナノスイート等）近隣では、特に多発が懸念されるため、注意が必要。

重点防除時期に定期防除で対策薬剤を使用しているので、しっかりと実施する。

１．「りんごうどんこ病（毛じ障害）」の対策

１）感染時期は、落花期～落花１５日後頃までで、それ以降は感染が見られない。

２）果皮が既に大きく変色したものや、サビ状になっているものは摘果する。

２．「ももうどんこ病」の対策

１）重点防除時期は、第５回定期防除で対策薬剤を使用しているので、しっかりと実施する。

３．共通

１）りんごうどんこ病（毛じ障害）は、後期症状になると、ももうどんこ病との見分けは困難であるため、発生時期・初期症状を把握し、判断する。

２）薬剤が果実に掛りやすいよう、結実が良い場合等、果実同士が密着しないよう、摘果しておく。

３）被害果が多い場合は、中でも程度の軽い果実や果柄部側（ホゾ側）のものを優先に残し、空枝にはせず適正着果量を確保する。

| | もも　うどんこ病 | りんご　うどんこ病（毛じ障害） |
|---|---|---|
| 発生時期 | 落花３０日頃から | 落花１５日頃から（満開後２０日後～２５日頃） |
| 初期症状 | 白粉をまぶしたような円形の病斑<br>毛じ内に白粉が観察される<br>果皮に異常は見られない | 淡褐色～褐色の小斑点<br>毛じは健全<br>果皮が淡褐色～褐色に変化 |
| 後期症状 | 菌そうは消え、毛じや果皮が褐変<br>着色期に目立たなくなる<br>一部でやや凹んだサビ状になる | 被害部はサビ状となる<br>軽微なものは着色に<br>より目立たなくなる |